糸井武雄

2

春

家元麿倉田百三の二氏より来る葉書の集已より来る
候補を宣しとう、京都も一騎当千の強者あれ
ども倉田百三氏漸く衰色あり唯一の地盤と頼
みし女学生團にして落涙の地獄に陥ちる演台
を改造倶楽部にてなせしよりも人に陥ちも
にしてよくかいる機れたる内容を蔵せらるる
ことと百年の志もさめたらん如く北風さん
つゝあり武者小路氏の信仰厚きものあるも不
二會にるの人あるは會の生命にも関すべし
と又対者堂は鼓を鳴らしつゝあり或は倉田氏の

二

みも盟圏内を脱すべしと把握されつゝあり志
賀氏の有力なるは多年の情熱にるもあるべけ
れど、高近「雨蛙」にて知しを立場を説明し直
く「暗夜行路」後篇の續を出でいよ〳〵深く潜
入し社會運動の徒らなる陣営をもつて終焉す
べき運命にあらざるの意図は必ず多年の地盤を擁張
し行くべしも滅かすることはあらざるべく嘱望
されつゝあり武者氏もまた押しに押して好
しき村の地盤のみならず藝術社派の仏教もあ
りて第戰におさおさおこたらずよく安子夫人は

十ノ井 松陰閣

(HM印 A…B)